



# 2024年3月期 第2四半期決算説明資料 事業説明資料 ~ロックドリル部門~

---

2023年11月27日

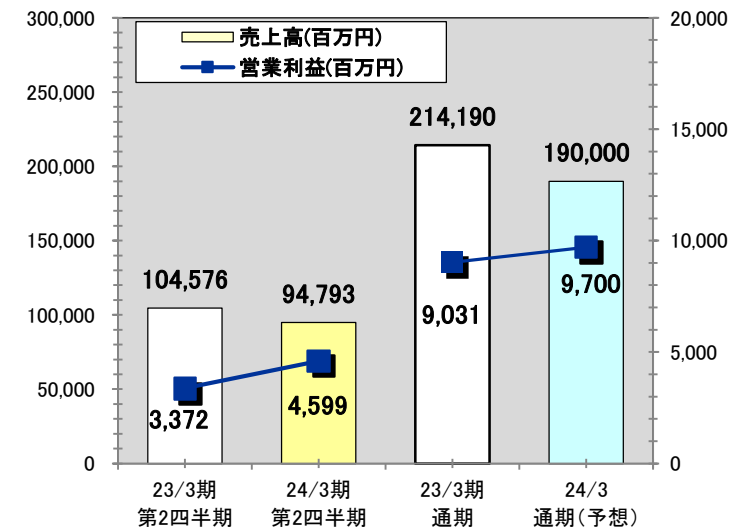
# 2024年3月期第2四半期決算および通期業績予想（連結）

## 【業績】

		2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	対前年同期増減	2023年3月期	2024年3月期 (予想)	対2023/3期 増減
売上高	百万円	104,576	94,793	△9,783	214,190	190,000	△ 24,190
営業利益	百万円	3,372	4,599	1,227	9,031	9,700	668
営業利益率	%	3.2	4.9	1.6	4.2	5.1	0.9
経常利益	百万円	5,219	6,074	855	9,348	10,500	1,151
親会社株主に帰属する 四半期純利益	百万円	3,448	12,911	9,463	6,211	16,500	10,288

## 【財務状況】

		2023年3月期	2024年3月期 第2四半期	対2023年3月期 増減
総資産	百万円	232,745	249,979	17,233
純資産	百万円	106,050	121,196	15,146
自己資本比率	%	44.2	47.2	2.9
1株当り純資産	円	2,700.87	3,170.97	470.10



# 連結損益計算書

## ■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	対前年同期増減
売上高	104,576	94,793	△9,783
売上原価	91,343	80,184	△11,158
(売上総利益)	13,232	14,608	1,375
販売費及び一般管理費	9,860	10,008	147
<b>営業利益</b>	<b>3,372</b>	<b>4,599</b>	<b>1,227</b>
営業外収益	2,975	2,343	△632
受取配当金	501	580	79
為替差益	2,142	1,080	△1,062
その他	331	682	350
営業外費用	1,128	869	△259
支払利息	248	245	△2
休鉱山管理費	401	400	△1
その他	479	223	△255
<b>経常利益</b>	<b>5,219</b>	<b>6,074</b>	<b>855</b>
特別利益	368	13,490	13,122
固定資産売却益	5	13,423	13,417
その他	362	67	△295
特別損失	1,187	701	△486
賃貸ビル解体費用	470	458	△12
子会社整理損	348	200	△147
その他	368	42	△325
税金等調整前当期純利益	4,399	18,863	14,463
法人税、住民税及び事業税	1,380	3,300	1,920
法人税等調整額	△565	2,515	3,081
四半期純利益	3,584	13,046	9,461
非支配株主に帰属する四半期純利益	136	134	△1
<b>親会社株主に帰属する四半期純利益</b>	<b>3,448</b>	<b>12,911</b>	<b>9,463</b>

持分法投資損益の改善等

古河大阪ビルの跡地その他の土地について、  
その共有持分の一部を譲渡

古河大阪ビル、古河浜通ビル、山要ビルの  
解体費用

ロックドリル部門販売子会社2社（中国、  
パナマ）の整理損

# 連結貸借対照表、キャッシュ・フロー

## ■ 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期 第2四半期	対2023年3月期 増減
<b>資産の部</b>			
流動資産	99,882	100,997	1,114
固定資産	132,862	148,982	16,119
有形固定資産	90,981	90,054	△926
無形固定資産	317	352	35
投資その他の資産	41,563	58,574	17,010
<b>資産合計</b>	<b>232,745</b>	<b>249,979</b>	<b>17,233</b>

現金及び預金、商品及び製品の増加など

古河大阪ビル跡地その他の土地の譲渡による土地の減少▲21億円など

古河大阪ビル跡地の固定資産譲渡代金（建築予定のホテル・一部住宅の取得費用として充当）等の長期未収入金107億円および上場株式の株価上昇による投資有価証券の増加等62億円

<b>負債の部</b>			
流動負債	63,111	59,900	△3,211
固定負債	63,583	68,881	5,298
<b>負債合計</b>	<b>126,695</b>	<b>128,782</b>	<b>2,087</b>
<b>純資産の部</b>			
株主資本	83,971	93,364	9,392
資本金	28,208	28,208	-
資本剰余金	2	2	-
利益剰余金	58,847	69,860	11,013
自己株式	△3,086	△4,707	△1,621
その他の包括利益累計額	18,974	24,565	5,590
非支配株主持分	3,103	3,267	163
<b>純資産合計</b>	<b>106,050</b>	<b>121,196</b>	<b>15,146</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>232,745</b>	<b>249,979</b>	<b>17,233</b>

## ■ 有利子負債（借入金）

(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期 第2四半期	対2023年3月期 増減
短期	7,449	7,102	△346
長期	55,399	55,294	△104
<b>有利子負債合計</b>	<b>62,848</b>	<b>62,397</b>	<b>△451</b>

## ■ 連結キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	対前年同期増減
営業キャッシュ・フロー	△7,191	8,443	15,634
投資キャッシュ・フロー	△597	1,946	2,544
財務キャッシュ・フロー	11,706	△4,312	△16,018
現金及び現金同等物の 四半期末残高	19,181	20,364	1,182

# 部門別業績 (連結)

(単位：百万円)

売上高	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	対前年同期 増減
機械事業	39,933	40,302	369
産業機械部門	7,862	6,054	△1,807
ロックドリル部門	18,003	19,961	1,957
ユニック部門	14,067	14,286	219
素材事業	61,964	51,503	△10,461
金属部門	53,903	43,359	△10,543
電子部門	3,600	3,540	△59
化成品部門	4,461	4,603	142
不動産事業	1,067	903	△164
その他	1,610	2,083	473
合計	104,576	94,793	△9,783

2024年3月期 (予想)	対2023年3月期 増減
85,600	3,941
17,900	△43
38,700	2,947
29,000	1,038
98,300	△28,504
81,900	△29,524
7,300	373
9,100	645
1,900	△156
4,200	528
190,000	△24,190

	2024年3月期 第1、2四半期実績	対前年同期増減
為替	141.0円/\$	7.0円/\$
銅価	8,417 \$/ト>	△217 \$/ト>

	2024年3月期 (予想)	対2023年3月期 増減
為替	143.0円/\$	7.5円/\$
銅価	8,209 \$/ト>	△342 \$/ト>

※2024年3月期第3、4四半期 (予想)

為替：145.0円/\$、銅価：8,000 \$/ト>

営業利益	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	対前年同期 増減
機械事業	1,882	2,581	698
産業機械部門	13	△283	△296
ロックドリル部門	1,057	2,146	1,089
ユニック部門	811	717	△93
素材事業	1,175	1,912	737
金属部門	492	1,254	761
電子部門	321	274	△46
化成品部門	361	383	22
不動産事業	424	226	△198
その他	△59	△86	△26
調整額	△50	△34	16
合計	3,372	4,599	1,227

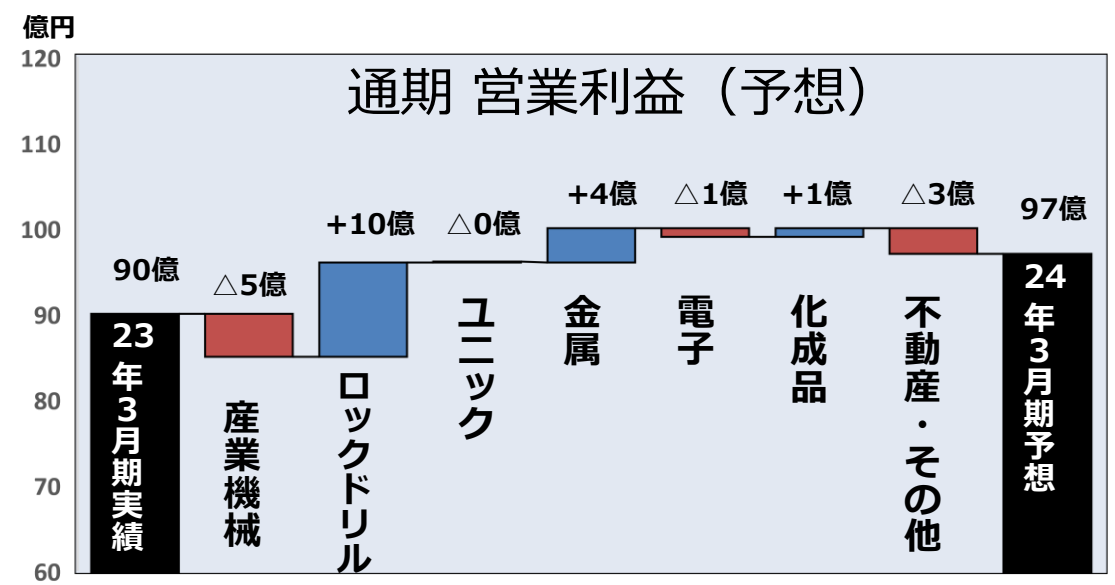
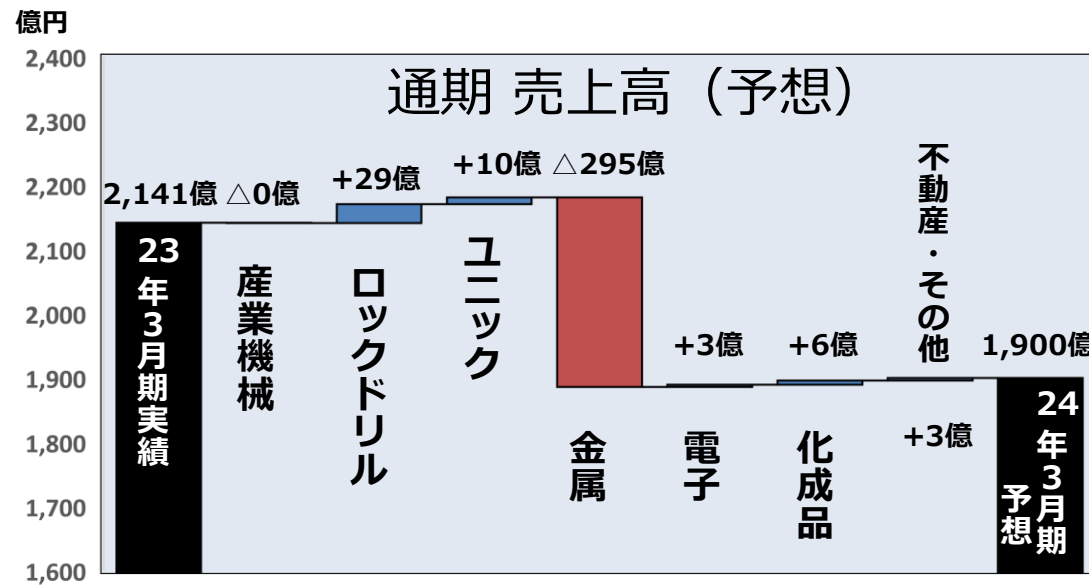
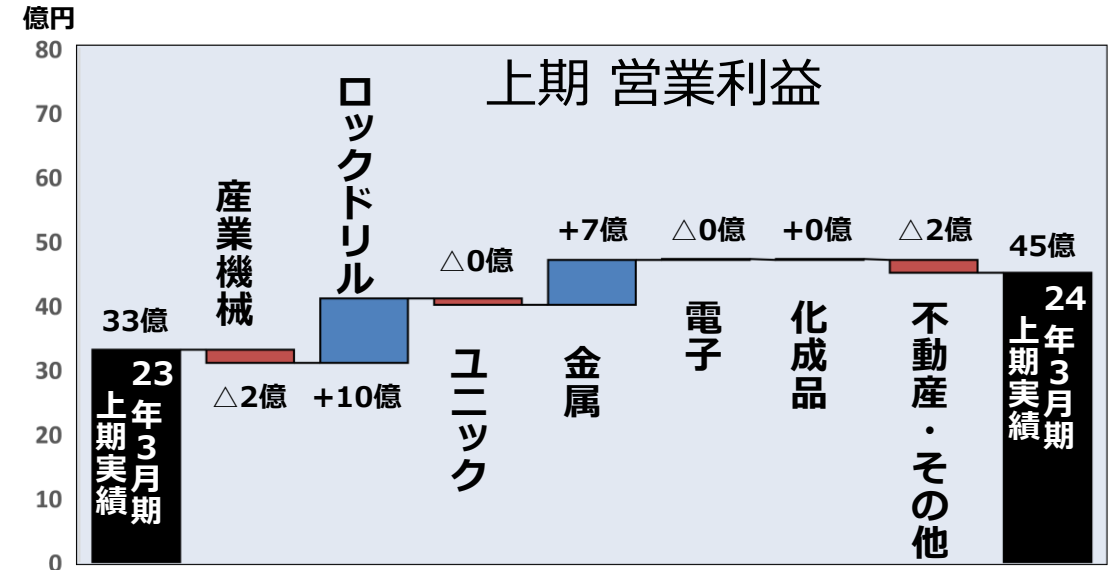
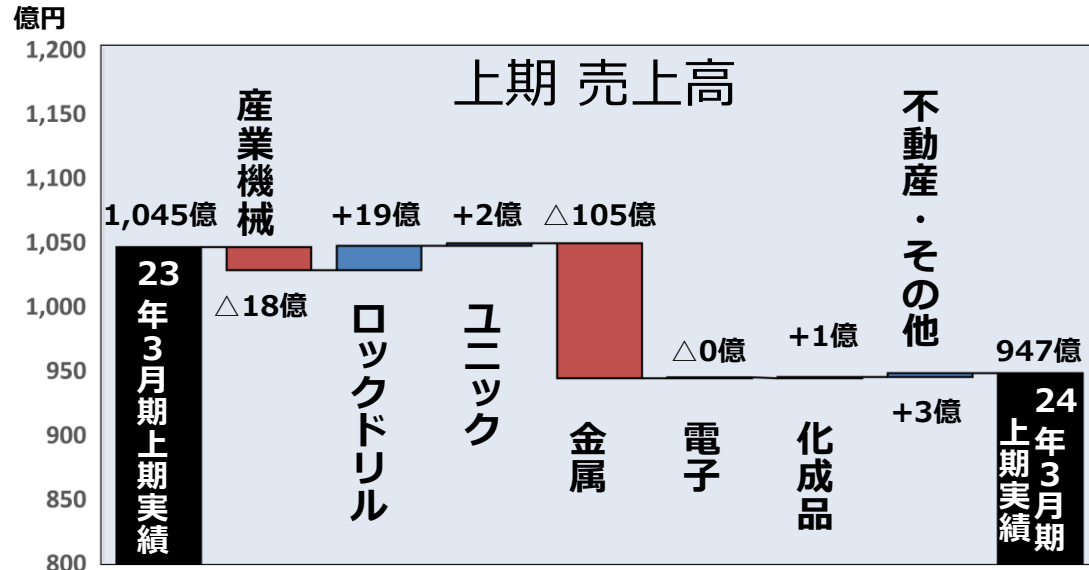
2024年3月期 (予想)	対2023年3月期 増減
6,600	506
1,000	△515
4,100	1,069
1,500	△47
2,800	490
1,700	423
400	△100
700	167
500	△335
△100	33
△100	△26
9,700	668

為替感応度について

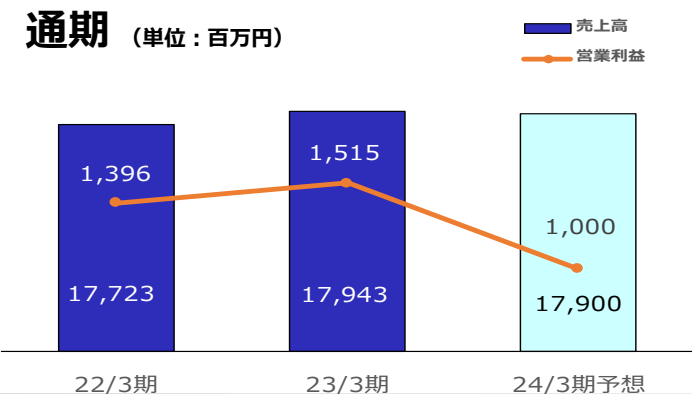
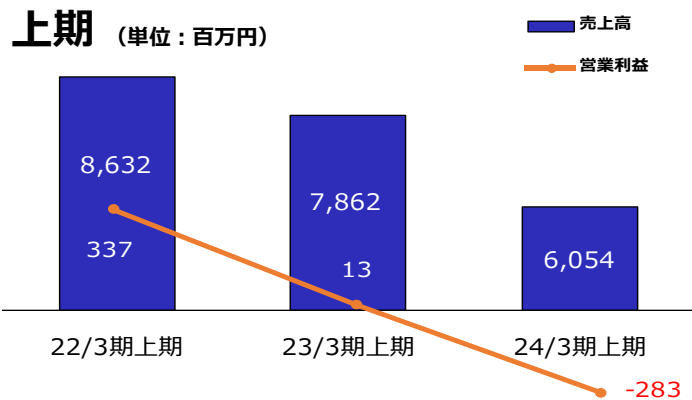
1円の円安で年間約1億円の営業利益増

- ・機械事業 (主にロックドリル部門) で約60百万円増
- ・金属部門で約40百万円増

# 部門別業績の増減（連結） / 対前年同期



# 部門別業績 (産業機械部門)



## ■ 上期実績の主な増減要因

【売上高】 △18億円

- ・ポンプ設備およびマテリアル機械は減収。コントラクタ事業は、橋梁で出来高に応じた売上高の計上も、大型プロジェクト案件（ベルトコンベヤ）の工事減少により減収。

【営業利益】 △2億円

- ・マテリアル機械でプラント工事の遅延に伴う追加原価の発生により損失計上。

	2024年3月期 第2四半期 会計期間末	対前年同期 増減
受注残	160億円	32億円

- 【ポンプ設備】  
森ヶ崎水再生センター、兵庫東流域下水汚泥広域処理場、他
- 【橋梁】  
国道20号八王子南バイパス大船寺田高架橋上部その1、他
- 【ベルトコンベヤ】  
ダムコンクリート搬送設備、トンネル掘削土砂搬送設備、他

## ■ 通期予想の主な増減要因

【売上高】 △0億円

- ・マテリアル機械、橋梁、大型プロジェクト案件（ベルトコンベヤ）で増収。ポンプ設備、環境製品（電気集じん装置）で減収。全体では減収予想。

【営業利益】 △5億円

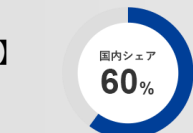
- ・主に橋梁、大型プロジェクト案件（ベルトコンベヤ）の増収による増益を見込むものの、マテリアル機械でプラント工事の遅延に伴う追加原価発生が響き、減益予想。

## ■ 参考

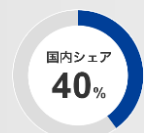
### ポンプ

- 【強み】 鉱山開発で培われた耐久性、耐摩耗性等に優れたポンプ製品
- 【向け先】 シールドトンネル工事現場、下水処理場等

【シェア】



下水処理用汚泥ポンプ

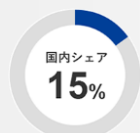


スラリーポンプ

### マテリアル機械

- 【強み】 機械の製造・販売をはじめ、セクションプラントに対応
- 【向け先】 碎石場、石灰鉱山、製鉄所等

【シェア】



破碎機

### コントラクタ事業

- 【強み】 工事の設計から施工まで一貫して受注できる総合力
- 【向け先】 鋼橋梁の新設工事、土砂搬送工事等

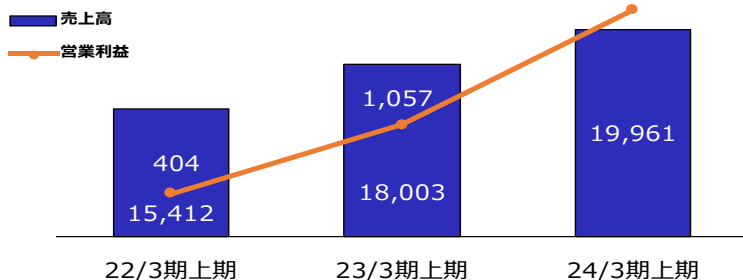
【注目】

ダンプトラックに替わる土砂搬送方法としてベルトコンベヤが注目、引き合い件数も増加

# 部門別業績（ロックドリル部門）



## 上期（単位：百万円）



### ■ 上期実績の主な増減要因

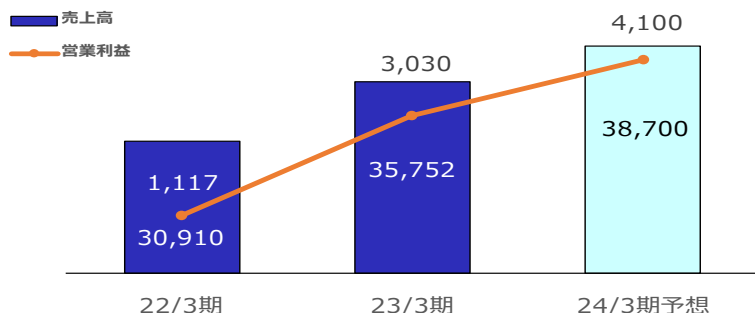
#### 【売上高】 国内66億円 +6億円、海外133億円 +12億円

- ・ 国内は油圧クローラドリル本体の出荷増、整備事業の受注増で増収。海外は北米を中心に出荷増で増収。円安による増収効果も。

#### 【営業利益】 +10億円

- ・ 主に海外での出荷増に加え、円安により増益。

## 通期（単位：百万円）



### ■ 通期予想の主な増減要因

#### 【売上高】 国内143億円 +1億円、海外244億円 +28億円

- ・ 国内は若干増収、海外は主に北米で出荷増と円安により増収予想。

#### 【営業利益】 +10億円

- ・ 主に海外での出荷増と円安による増収効果により増益予想。

### ■ 参考

#### 油圧ブレーカ

【強み】 小型から超大型までラインナップ  
高品質かつ高打撃力

【向け先】 碎石場等の露天掘り現場、  
土木・建築現場等

【シェア】



#### 油圧クローラドリル

【強み】 岩盤の状態に応じた正確かつ  
スピーディーな掘削技術

【向け先】 石灰鉱山等の露天掘り現場、  
海外のインフラ整備等

【シェア】



#### トンネルドリルジャンボ

【強み】 山岳トンネルや長大トンネルでの  
数多くの実績

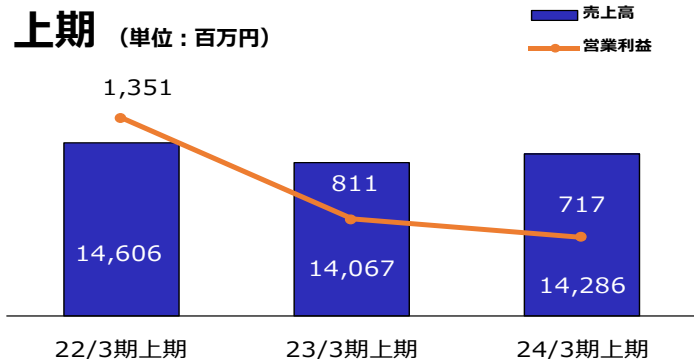
【向け先】 山岳トンネル工事現場、  
ダム等の導水路工事現場等

【シェア】





# 部門別業績（ユニック部門）



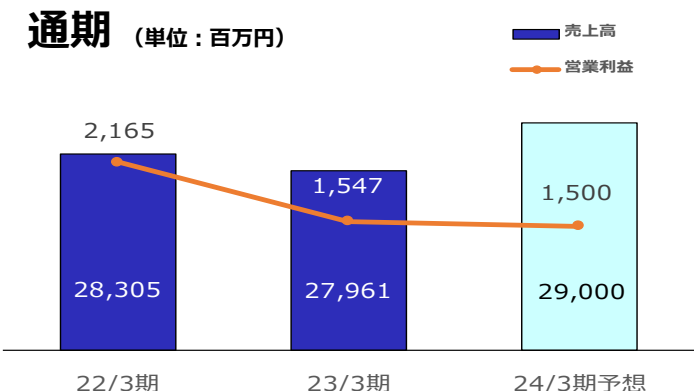
## ■ 上期実績の主な増減要因

【売上高】 国内110億円 +15億円、海外32億円 △13億円

- ・国内はトラックの生産遅延が回復傾向となりユニッククレーンの出荷増により増収。海外は中国、東南アジア、欧州等への出荷減により減収。

【営業利益】 △0億円

- ・製品価格の値上げ直前の駆け込み需要等により原価率が悪化し減益。



## ■ 通期予想の主な増減要因

【売上高】 国内224億円 +24億円、海外64億円 △14億円

- ・海外は上期減収分が響き減収を見込むも、トラックの生産回復傾向にある国内で増収予想。

【営業利益】 △0億円

- ・国内の増収増益も、海外で減収減益、購入部品、部材費等の高騰によりほぼ前年並みと予想。

## ■ 参考

### ユニッククレーン

- 【強み】 ニーズに合わせたブーム段数等豊富にラインナップ
- 【向け先】 土木・建築現場、資材運搬、レンタル会社等

【シェア】

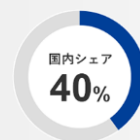


ユニッククレーン

### ミニ・クローラクレーン

- 【強み】 コンパクトなボディで狭小地や不整地、屋内作業現場で威力を発揮
- 【向け先】 狭小地や不整地、屋内作業現場、レンタル会社等

【シェア】



ミニ・クローラクレーン

### ユニックキャリア

- 【強み】 車載専用型や重機運搬型等の充実のラインナップ
- 【向け先】 自動車販売会社、運搬会社、道路施設会社等

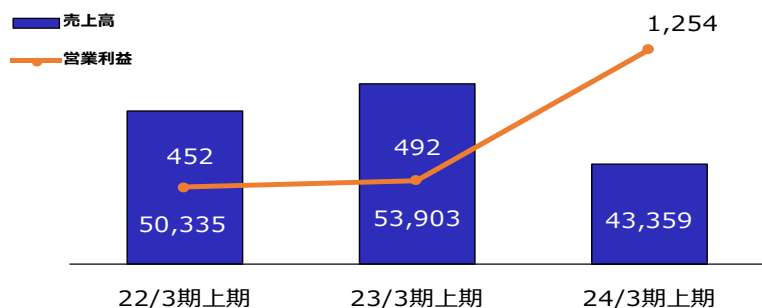
【シェア】



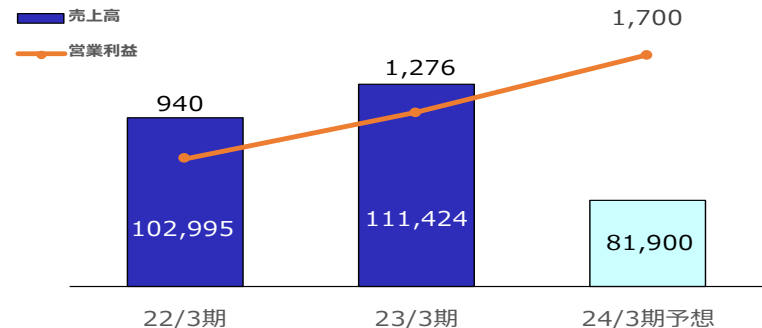
ユニックキャリア



## 上期（単位：百万円）



## 通期（単位：百万円）



### ■ 参考

#### 電気銅

- 【強み】 創業当時から電気銅の供給責任を果たし、年間約4.6万トン生産
- 【向け先】 電線、伸銅品、家電製品、通信機器、自動車等
- 【2023年度】 小名浜製錬(株)との契約終了に伴い委託製錬事業の抜本的な見直しにめど、不採算の輸出大幅減

### ■ 上期実績の主な増減要因

#### 【売上高】 △105億円

- 小名浜製錬(株)との委託製錬契約終了（2023年3月末）により販売数量が減少し減収。  
銅 △95億円（数量△105億円、単価+9億円）  
金 △6億円（数量△18億円、単価+11億円）

#### 【営業利益】 +7億円

- 数量減により不採算の輸出が大幅に削減し委託製錬収支は改善。  
金属価格変動影響による差益（下表）で銅、金ともに増益。

金属価格変動影響による損益について

	2024年3月期 第2四半期累計期間	対前期同期増減
営業利益	12.5億円	7.6億円
内価格影響分	8.7億円	3.4億円
銅	(1.2億円)	(2.4億円)
金	(6.8億円)	(0.6億円)

	2024年3月期 第1,2四半期実績	対前期同期増減
為替	141.0円/\$	7.0円/\$
銅価	8,417 \$/ト>	△217 \$/ト>

	2024年3月期 (予想)	対2023/3期 増減
為替	143.0円/\$	7.5円/\$
銅価	8,209 \$/ト>	△342 \$/ト>

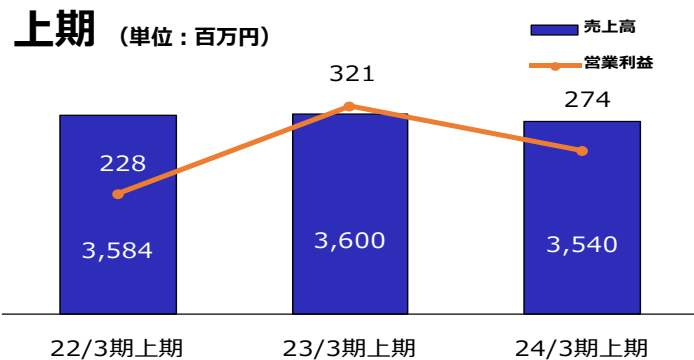
### ■ 通期予想の主な増減要因

#### 【売上高】 △295億円

- 小名浜製錬(株)との委託製錬契約終了（2023年3月末）により、電気銅の販売数量が減少（約2万トン減）することを主因として減収予想。

#### 【営業利益】 +4億円

- 下期の金属価格変動による価格差益を見込まないものの、委託損益の改善により増益予想。



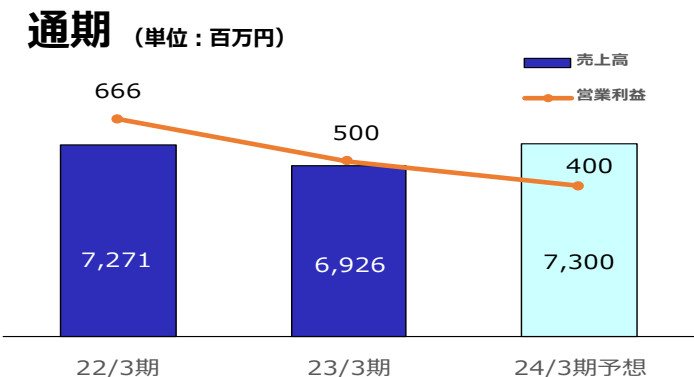
## ■ 上期実績の主な増減要因

### 【売上高】 △0億円

- ・ 高純度金属ヒ素は化合物半導体向け市場が未だ在庫調整期のため減収。窒化アルミセラミックスは半導体製造装置向け部品の需要低迷により減収。コイルは自動車生産の回復とコスト増に対する価格転嫁により増収。

### 【営業利益】 △0億円

- ・ 高純度金属ヒ素、窒化アルミセラミックスの減収等により減益。



## ■ 通期予想の主な増減要因

### 【売上高】 +3億円

- ・ 窒化アルミセラミックスは半導体製造装置向け部品の需要低迷継続により減収予想も、高純度金属ヒ素は化合物半導体向けの需要回復、コイルは自動車市場の回復傾向により、増収予想。

### 【営業利益】 △1億円

- ・ コイルは増収による増益を見込むものの、窒化アルミセラミックスの減収による減益等により、減益予想。

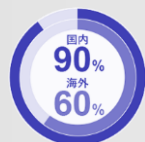
## ■ 参考

### 高純度金属ヒ素

【強み】 国内で唯一世界最高純度99.999995% (7N5) の高純度金属ヒ素を生産し、世界シェアトップ

【用途】 PC、スマートフォン、赤外線発光部品、赤色LD・LED等

【シェア】



高純度金属ヒ素

### 窒化アルミセラミックス

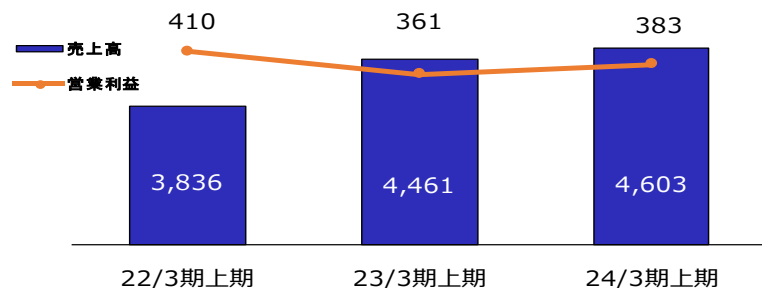
【強み】 熱伝導性、絶縁性、均熱性、耐食性に優れた放熱部材で当社独自の成型・焼成・加工技術

【用途】 半導体製造装置用部品、高出力LED、樹脂製放熱シート等

【フル生産】 優れた放熱部材としての認知が広がりつつあり、需要拡大によるフル生産が継続、増産投資を実施



## 上期（単位：百万円）



### ■ 上期実績の主な増減要因

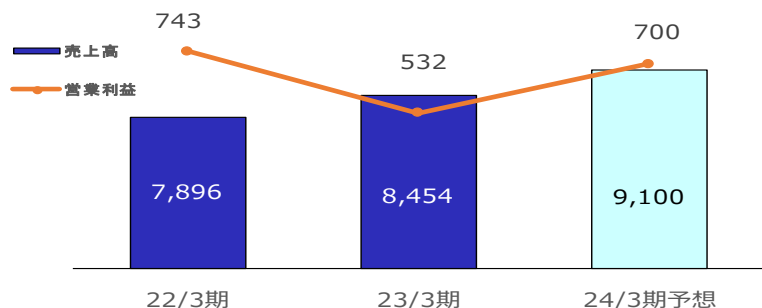
#### 【売上高】 +1億円

- ・ 酸化銅は銅価上昇および価格改定による単価上昇も、基板向け需要減により減収。亜酸化銅は船底塗料向けの需要回復に加え、銅価および価格改定による販売単価上昇により増収。

#### 【営業利益】 +0億円

- ・ 増収による増益。

## 通期（単位：百万円）



### ■ 通期予想の主な増減要因

#### 【売上高】 +6億円

- ・ 亜酸化銅、酸化銅は販売数量増と銅価上昇および価格改定による増収等を見込み、増収予想。

#### 【営業利益】 +1億円

- ・ 増収による増益予想。

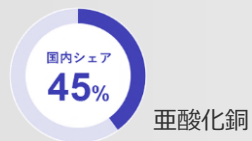
## ■ 参考

### 亜酸化銅

【強み】 船底へのフジツボ等の付着を防止する船底塗料用防汚剤

【向け先】 船底塗料メーカー等

【シェア】



### 酸化銅

【強み】 パッケージ基板等の回路形成用めっきシステムに適した銅原料

【向け先】 パソコンやサーバー等に使用されるパッケージ基板製造メーカー等

【生産力増強】 電子材料の小型化や高性能化により、パッケージ基板は今後需要増が見込まれ、現有設備の生産力増強を予定

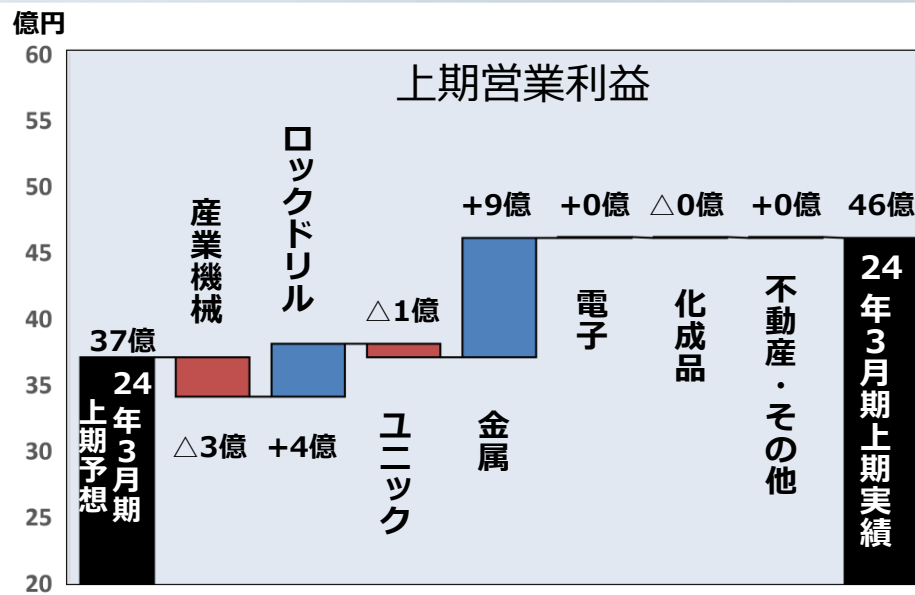
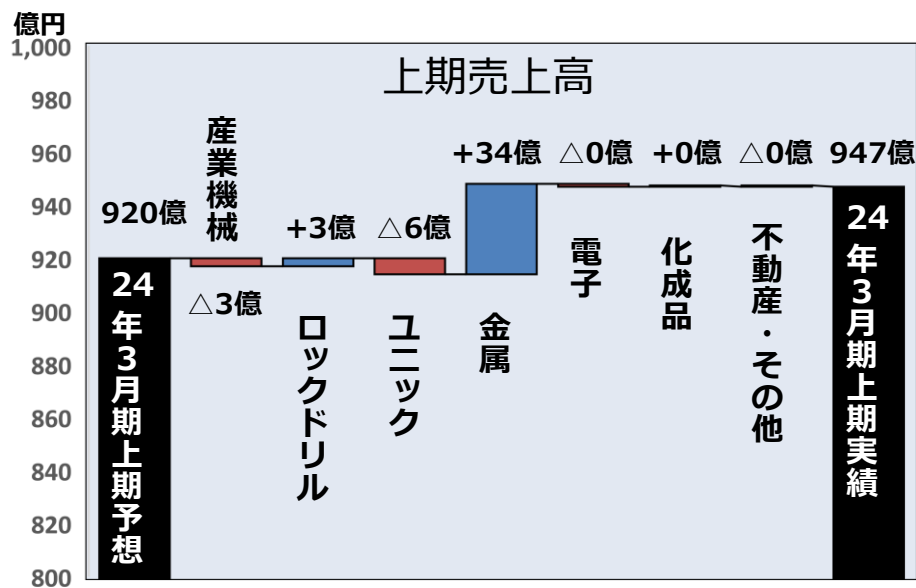
### 硫酸

【強み】 硫黄焙焼法で不純物が少なく、食品添加物にも使用可能

【向け先】 化学・電子部材・鉄鋼・食品加工等の製造会社等

【基礎原料】 各製造会社に不可欠な基礎材料として需要は安定

# 部門別業績の増減（連結） / 対前回予想

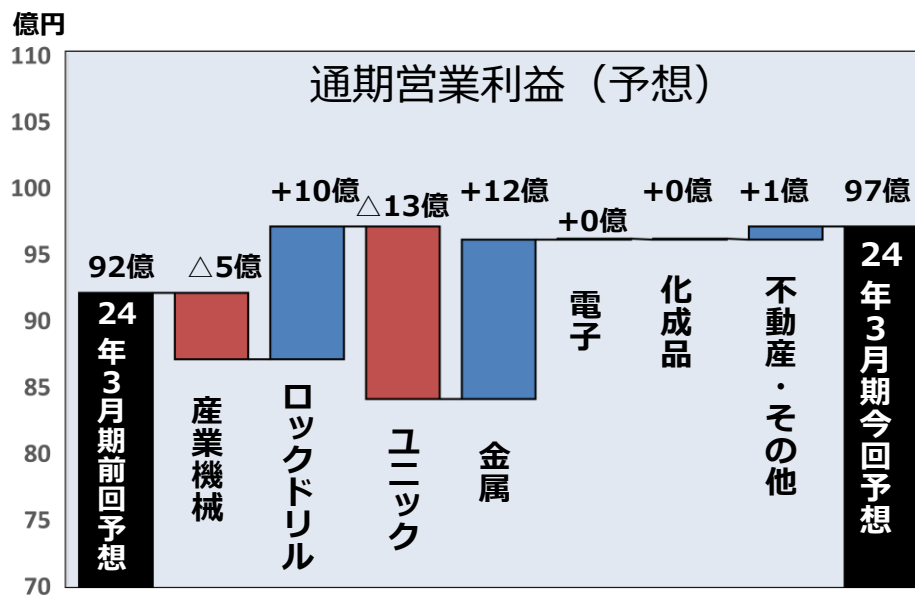
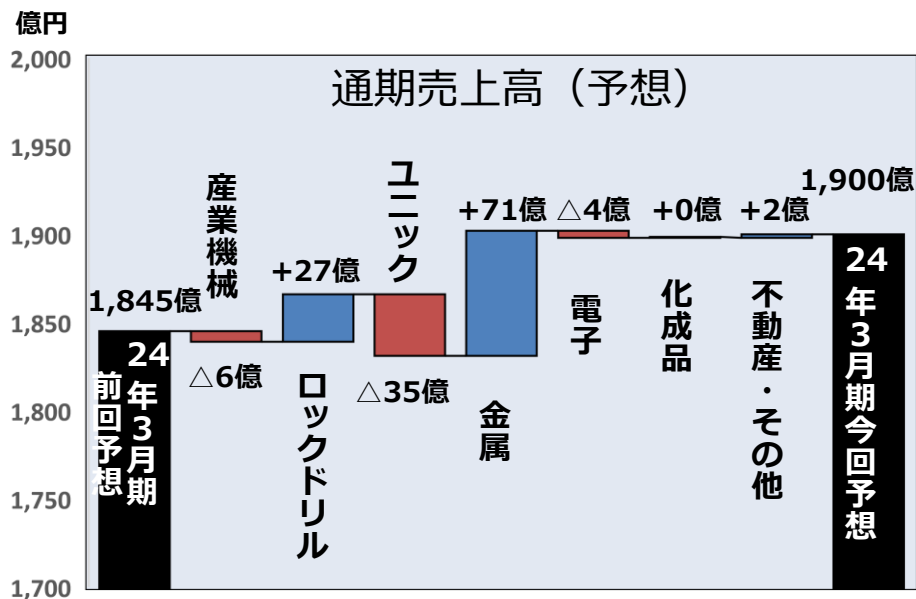


### <上期増減要因>

大型プロジェクト案件の工事減やプラント工事で追加原価が発生した産業機械部門、トラックの入庫遅れによりユニッククレーンの出荷が予想を下回ったユニックク部門は、減収減益。  
海外販売の割合が多く円安効果があったロックドリル部門、金属価格変動や円安による価格差益があった金属部門は、増収増益。

※為替前提条件

期初135円/\$ → 結果141.0円/\$



### <通期予想増減要因>

産業機械部門は、上期実績を主因として、減収減益を見込み、ユニック部門は、ユニッククレーンの出荷が予想を下回ることに加え、購入部品、部材費等の高騰により、減収減益幅が拡大する見込み。  
ロックドリル部門は主として円安による増収増益を見込み、金属部門は上期の金属価格変動や円安による価格差益により増収増益の見込み。

※為替前提条件

期初135円/\$ → 通期予想143円/\$

# 株主・投資家との対話

- 個別IRミーティングで得られた機関投資家の主な関心事項
- 今回は赤枠で囲った3項目について説明

## 機関投資家との主な対話内容

テーマ	関心事項
経営戦略	事業戦略（主にコア事業である機械事業）
	金属部門や不動産事業の今後
	事業ポートフォリオマネジメントの概要
	経営資源の配分
株主還元	配当方針、自己株式取得等
経営成績	業績および今後の見通し
	鋼材等原材料価格上昇の影響や対応
ESG	気候変動・脱炭素への取り組み
	政策保有株式の縮減



ロックドリル部門について  
21ページ以降にて説明



15ページにて説明



16ページにて説明

## ■ 機械事業に経営資源を集中、リターン向上

グループ基本方針

CSVの視点を織り込んだ「マーケティング経営」の実践

コア事業と位置づける  
**機械事業**

- **社会インフラ整備**  
気候変動により増加している災害に対する防災や減災などの社会課題解決に貢献するインフラ整備
- **安全で環境に優しい豊かな社会の実現**  
働く人の安全・安心な現場、労働力不足を解決する製品・技術・サービスなどの提供

**社会価値**  
の創造へ寄与

**産業機械部門**

ポンプ、マテリアル機械、ベルトコンベヤ、大規模な国内インフラプロジェクト向け製品の販売増

**ロックドリル部門**

製品ライフサイクル全域でのカスタマーサクセスを実現する「FRDモデル」の構築

**ユニック部門**

国内での安定的な収益確保に加え、海外販売での収益拡大

**機械事業で設備投資累計額の70%を投下、連結売上高の50%以上、連結営業利益の80%以上** を占めることを目指す

将来における非連続な成長を実現するために、アライアンスやM&Aへの取り組みについても一層強化

# 気候変動・脱炭素への取り組み

## TCFD提言に基づく開示

- 2023年8月にTCFD提言への賛同を表明  
「ガバナンス」、「戦略」、「リスク管理」、「指標と目標」を開示
- シナリオ分析は、気候変動に伴うリスクと機会が事業ごとに異なるため、順次部門別を実施

第一段階として、ロックドリル部門と金属部門について実施（2023年8月開示）

→下期からユニック部門と化成品部門のシナリオ分析を開始（2024年開示予定）。その後、産業機械部門と電子部門について分析開始予定

### ガバナンス

- 気候変動に伴うリスクと機会を重要な経営課題と認識
- 諸課題への対応はサステナビリティ推進会議で審議し、取締役会へ答申

### 戦略

- 1.5℃シナリオと4℃シナリオを設定し、2030年と2050年の時点で事業に影響を及ぼす可能性がある気候関連のリスクと機会の重要性を評価
- リスクの低減と機会の最大化が図れる対応策（戦略）を開示

### リスク管理

- リスクの評価、対応策の検討等は、リスクマネジメント委員会が実施し、結果を取締役に答申（原則年2回開催）

### 指標と目標

- リスクと機会の継続的把握と気候変動への取り組みが肝要  
2025年度までにカーボンニュートラルに向けた対応ロードマップを策定予定
- 温室効果ガスの排出削減効果の高い製品・技術・サービスの提供と  
事業活動に伴う温室効果ガスの排出削減に努める



# 政策保有株式の縮減

## 縮減方針

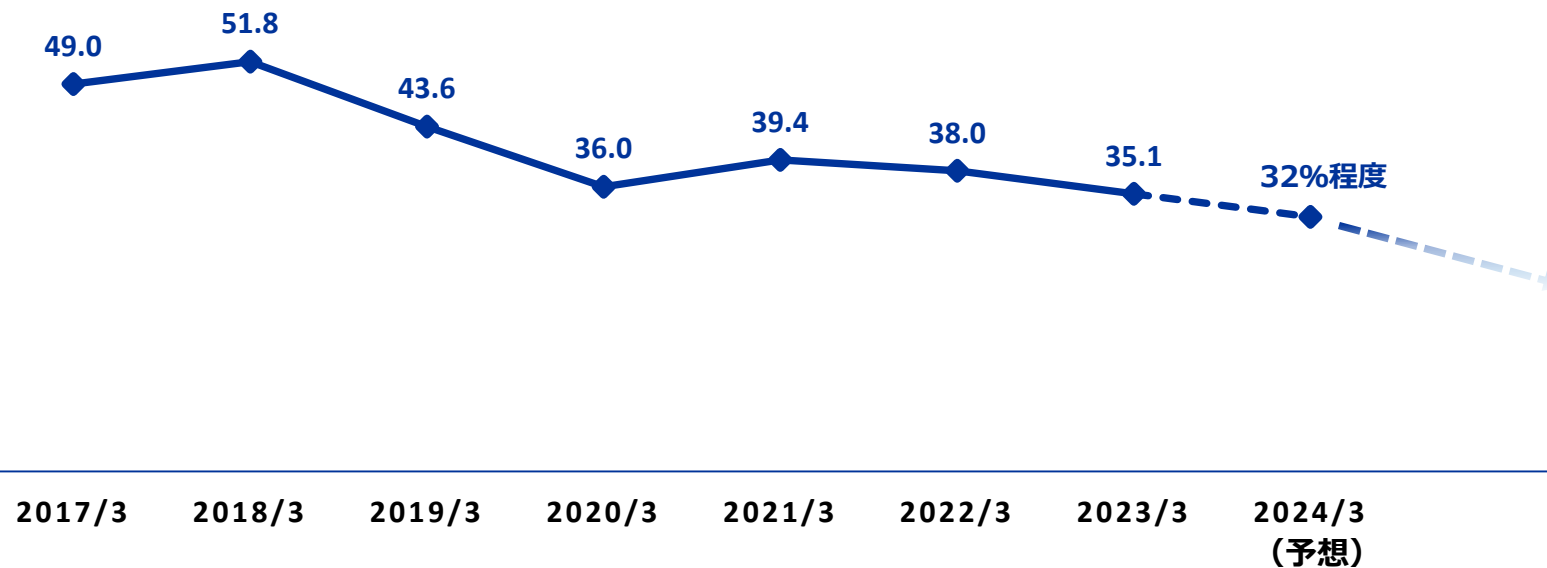
- 資本コストを含む総合的な判断による保有継続の適否を毎年検証
- 政策保有株式の連結純資産に対する比率を継続開示

## 今期計画

- 政策保有株式を8銘柄売却予定（30億円規模）  
2024年3月末の保有比率は32%程度まで低下する見込み（みなし保有株式含む）

### 【政策保有株式比率※】

※政策保有株式（みなし保有株式含む）の連結純資産に対する比率。



## 【設備投資の状況（連結）】

(単位：百万円)

設備投資額	2022年3月期	2023年3月期		2024年3月期	
		(第2四半期)	(通期)	(第2四半期)	(通期予想)
機械事業	2,669		2,125		4,800
産業機械部門	1,703		912		2,700
ロックドリル部門	247		708		1,200
ユニット部門	718		504		900
素材事業	696		1,571		2,400
その他	1,413		489		2,400
合計	4,778	918	4,187	3,111	9,600

小山工場の設備投資（新事務所棟建築）による増加等

群馬環境リサイクルセンターの医療廃棄物処理設備（焼却炉増設、2022年度から2023年度まで総額約28億円）の新設による増加等

電子部門で窒化アルミセラミックス生産設備（総額約10億円）の新設による増加等  
化成部門で硫酸製造設備更新等

不動産事業で大阪に賃貸ビル取得（約14億円）

## 【減価償却費の状況（連結）】

減価償却費	4,003	2,047	4,111	2,165	4,300
-------	-------	-------	-------	-------	-------

## 【研究開発費の状況（連結）】

研究開発費	1,336	712	1,384	713	1,400
-------	-------	-----	-------	-----	-------

## 【金属製品・為替の状況（連結）】

		2022年3月期	2023年3月期		2024年3月期	
			(第2四半期)	(通期)	(第2四半期)	(第3, 4四半期想定)
銅 海外相場 (平均)	¢/ポンド	439.6	391.6	340.2	381.8	362.9
	\$/トン	9,691	8,634	7,500	8,417	8,000
円相場 対米ドル平均(円/\$)		112.38	133.97	140.00	141.00	145.00

《古河メタルリソース(株)生産販売》	2022年3月期	2023年3月期		2024年3月期	
		(第2四半期)	(通期)	(第2四半期)	(第3, 4四半期想定)
銅 生産量 (t)	71,149	34,785	70,146	24,961	48,262
銅 販売量 (t)	77,402	35,517	75,866	26,475	53,809

＜銅の生産量について＞

- ・2023年3月末に小名浜製錬(株)との委託製錬契約を終了し2024年3月期より生産量は減少。  
今後はもう一つの委託先である日比共同製錬(株)のみで生産。

## 【従業員の状況（連結）】

	2022年3月末	2023年3月末	2023年9月末	対2023年3月末増減
連結人員(名)	2,804	2,831	2,856	25

## 連結業績

(単位:百万円)

	09年3月期	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期	17年3月期	18年3月期	19年3月期	20年3月期	21年3月期	22年3月期	23年3月期	24年3月期(予想)
売上高	161,857	142,925	165,638	157,566	165,539	163,026	172,544	161,799	149,829	167,695	174,116	165,215	159,702	199,097	214,190	190,000
営業利益	2,303	1,597	2,821	2,154	3,363	6,886	8,925	7,988	6,545	7,820	8,915	8,693	5,592	7,734	9,031	9,700
経常利益	993	111	1,231	1,268	2,763	6,150	6,603	6,227	7,202	8,105	8,235	8,135	6,773	8,996	9,348	10,500
親会社株主に帰属する当期純利益	△ 5,917	585	563	△ 1,659	2,976	3,976	9,793	5,056	4,254	4,774	4,654	4,431	7,468	6,477	6,211	16,500

## 部門別実績

### 〔売上高〕

(単位:百万円)

	09年3月期	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期	17年3月期	18年3月期	19年3月期	20年3月期	21年3月期	22年3月期	23年3月期	24年3月期(予想)
機械事業	62,639	44,313	47,025	53,198	56,852	71,111	75,990	72,232	66,803	73,453	77,580	82,691	68,635	76,938	81,658	85,600
産業機械部門	15,836	12,783	10,655	12,949	12,894	18,527	16,712	14,926	14,041	15,871	17,971	23,237	16,682	17,723	17,943	17,900
ロックドリル部門	29,427	20,386	23,880	24,143	23,305	26,842	30,910	30,076	26,979	30,199	30,372	27,663	24,149	30,910	35,752	38,700
ユニック部門	17,375	11,142	12,490	16,105	20,651	25,741	28,367	27,229	25,782	27,381	29,237	31,791	27,804	28,305	27,961	29,000
素材事業	80,175	82,128	92,203	79,917	88,026	90,162	93,270	85,644	78,968	89,987	92,722	79,366	88,203	118,163	126,804	98,300
金属部門	68,786	71,132	79,979	68,114	77,944	78,684	81,513	74,192	67,853	77,334	80,067	67,149	76,094	102,995	111,424	81,900
電子部門	5,568	5,969	7,147	4,615	4,987	5,381	5,743	5,477	5,816	6,307	6,527	5,506	5,741	7,271	6,926	7,300
化成品部門	5,820	5,025	5,076	5,187	5,093	6,096	6,013	5,973	5,298	6,344	6,127	6,710	6,367	7,896	8,454	9,100
不動産事業	2,386	2,043	1,577	1,233	1,058	1,013	2,535	3,045	3,074	3,338	2,999	2,386	2,107	2,115	2,056	1,900
その他	1,204	854	785	766	753	739	747	876	983	916	814	771	755	1,879	3,671	4,200
塗料部門(※1)	—	3,692	15,040	14,874	15,078	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
燃料部門(※2)	15,452	9,893	9,004	9,576	3,770	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	161,857	142,925	165,638	157,566	165,539	163,026	172,544	161,799	149,829	167,695	174,116	165,215	159,702	199,097	214,190	190,000

### 〔営業利益〕

(単位:百万円)

	09年3月期	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期	17年3月期	18年3月期	19年3月期	20年3月期	21年3月期	22年3月期	23年3月期	24年3月期(予想)
機械事業	1,733	△ 3,022	△ 566	1,970	2,923	5,333	6,551	5,882	3,580	5,083	6,567	7,343	3,968	4,679	6,093	6,600
産業機械部門	767	△ 433	△ 29	708	778	1,851	1,711	1,037	104	1,005	2,088	3,208	2,113	1,396	1,515	1,000
ロックドリル部門	255	△ 2,584	△ 350	333	△ 67	341	1,225	2,217	897	1,782	1,689	142	△ 1,324	1,117	3,030	4,100
ユニック部門	710	△ 870	△ 186	928	2,212	3,141	3,614	2,627	2,578	2,295	2,789	3,992	3,180	2,165	1,547	1,500
素材事業	229	3,985	3,044	325	324	1,695	1,770	983	1,870	1,648	1,396	776	1,040	2,349	2,309	2,800
金属部門	23	3,224	1,494	308	282	1,503	1,449	1,154	1,738	867	581	301	499	940	1,276	1,700
電子部門	4	657	1,279	△ 234	△ 262	△ 123	52	△ 368	17	330	407	△ 35	161	666	500	400
化成品部門	201	104	269	251	304	315	267	197	114	451	406	510	380	743	532	700
不動産事業	706	1,128	635	356	219	△ 43	776	1,276	1,265	1,339	1,163	735	736	743	835	500
その他	△ 304	△ 376	△ 92	△ 93	△ 63	△ 60	△ 130	△ 72	△ 126	△ 196	△ 147	△ 94	△ 82	17	△ 133	△ 100
塗料部門(※1)	—	△ 19	△ 93	△ 329	65	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
燃料部門(※2)	202	△ 29	△ 56	△ 13	△ 28	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
調整額	△ 264	△ 69	△ 49	△ 60	△ 78	△ 39	△ 42	△ 80	△ 44	△ 55	△ 64	△ 68	△ 71	△ 54	△ 73	△ 100
合計	2,303	1,597	2,821	2,154	3,363	6,886	8,925	7,988	6,545	7,820	8,915	8,693	5,592	7,734	9,031	9,700

※1 2013年3月に㈱トクベの株式譲渡により塗料部門から撤退

※2 2012年10月に古河コープス㈱の株式譲渡により燃料部門から撤退

注:「セグメント情報等の開示に関する会計基準」の適用(11年3月期)により10年3月期の数値を同基準に置き換えて表示しています

銅価(\$/トシ)	5,864	6,101	8,139	8,485	7,855	7,104	6,554	5,215	5,154	6,444	6,341	5,860	6,879	9,691	8,551	8,209
為替(円/\$)	100.54	92.85	85.71	79.07	83.10	100.24	109.93	120.13	108.42	110.85	110.91	108.74	106.06	112.38	135.47	143.00

FURUKAWA

Power & Passion

150

# ロックドリル部門事業説明





## 基本戦略

- 製品ライフサイクル全域でカスタマーサクセスを実現するビジネスモデル（FRDモデル）の構築

## 重点課題

- 国内におけるFRDモデルの確立  
ライフサイクルサポートビジネスの強化
  - ・ 部品、消耗品の販売強化
  - ・ ブラストホールドリル※向けサポートプログラムの商品化
  - ・ 下取り再販ビジネスの確立（トンネルドリルジャンボ、油圧クローラドリル）

※ブラストホールドリル：  
油圧/空圧クローラドリル、ダウンザホールドリル、アタッチメントドリルの総称

## ● 集中販売・集中生産

海外：大型ブラストホールドリルの北米市場開拓と東南アジア砕石市場（油圧）創造の先陣機としてのアタッチメントドリルの展開強化

国内：砕石市場における販売強化、油圧圧砕機の小割機集中販売と解体機的首都圏集中展開による解体機市場の深耕

生産：集中生産によるコストダウン、品質強化（クレーム減）、リードタイム短縮



油圧ブレイカ



油圧クローラドリル

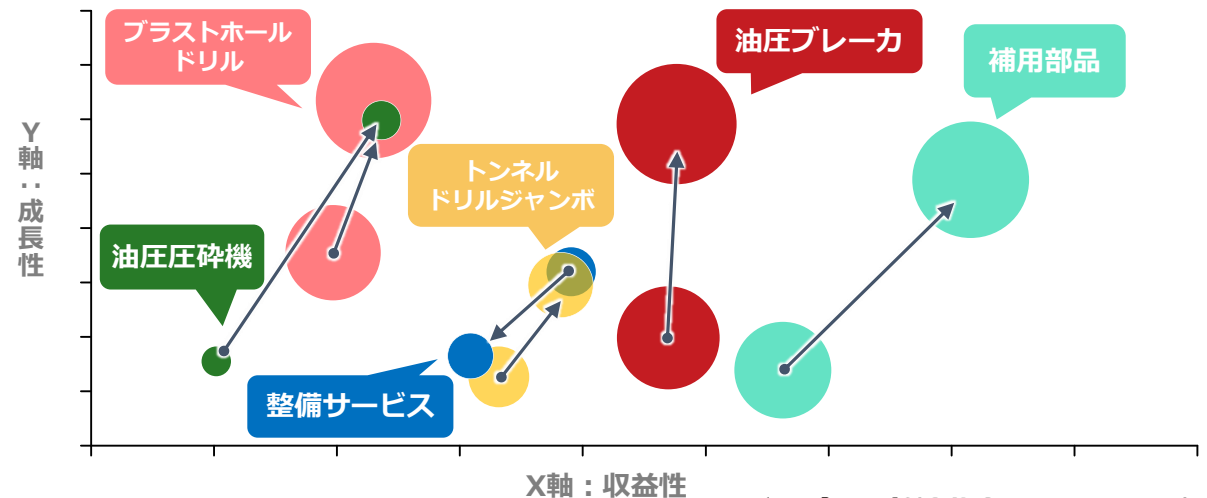


トンネルドリルジャンボ

## 【ロックドリル部門】事業（製品）ポートフォリオ ※2021年度実績と2025年度イメージの比較

ブラストホールドリル、油圧ブレイカ、油圧圧砕機、トンネルドリルジャンボ、補用部品  
成長性および収益性向上により増益

整備サービス  
成長性、収益性は鈍化するものの、利益額は横ばい





## 市場環境

### 国内

- 少子高齢化に伴うオペレーターの不足
- 解体機市場は大型化、高打撃化ニーズの高まり
- トンネル案件は安全対策として無人化施工ニーズが高い

### 海外

- 北米は景気刺激策、インフラ投資により広域レンタル需要が堅調
- 欧州は長期化するウクライナ侵攻、インフレに成長は鈍化するものの、都市整備需要でレンタル需要が継続
- 東南アジアは空圧市場からGDP拡大に伴い油圧化が期待

### LCS (ライフサイクルサポート)

- 国内は熟練工不足に伴い、作業員のスキル向上につながるサービス需要の増加
- 自社製品稼働地域での部品需要

## 主な施策

### 油圧クローラドリル

- セミオートせん孔機能追加

### 油圧ブレーカ、油圧圧砕機

- 首都圏解体機市場開拓（大型、超大型ブレーカ販売強化）
- 油圧圧砕機の小割機集中販売（道路ゼネコン、骨材リサイクル向け）

### トンネル関連製品

- 無人化、省人化製品（全自動ドリルジャンボ、ロックボルト施工機「ボルティンガー」、エレクト付コンクリート吹付機等）の販売強化

### 北米の約8割を占める大型機市場の深耕

- 大型プラスチックホルドリルの集中販売
- 西部地区に拠点設立し、爆砕業者への販売強化

### 欧州のブレーカ市場開拓

- 欧州市場をけん引する4か国（フランス、イギリス、イタリア、ドイツ）において、レンタル向けの販売店網の強化・拡充によりシェア拡大

### 東南アジアの砕石市場創造

- 先陣機となるアタッチメントドリルにより古河製ドリフタの優位性を訴求（インドネシア、カンボジア等）
- 東南アジア市場向けに開発中の中小型油圧クローラドリルを上市（2025年）

### 国内におけるFRDモデルの確立 部品販売強化

- 部品価格の見直し
- 海外販売店契約の見直し
- スtockビジネス営業のスキルアップ

### 整備サービス事業強化

- 油圧ブレーカ、油圧圧砕機の整備体制再考
- 油圧クローラドリルの予防メンテナン（予防保全）を強化し、目的別整備提案

### ビジネスモデルの開発（カスタマーサクセス）

- 油圧クローラドリルは稼働サポートシステムを活用したサポートプログラムの商品化（無形サービス、サブスク）

## 目指す 成果

自動化・機械化で高効率  
かつ安全な作業の実現

東南アジアの砕石市場における  
油圧化実現

技術提供等による  
カスタマーサクセスの実現



## 主要製品

### 油圧ブレーカ

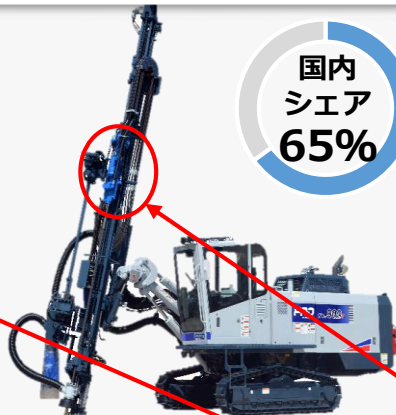
国内  
シェア  
40%



土木・建築・解体現場 他

### 油圧クローラドリル

国内  
シェア  
65%



石灰鉱山、砕石場、  
土木・建築現場 他

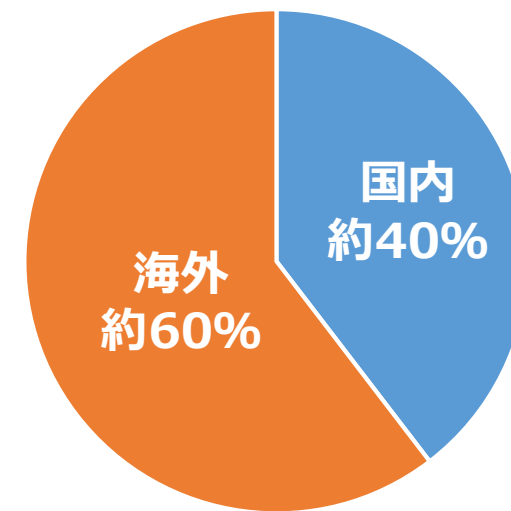
### トンネルドリルジャンボ

国内  
シェア  
80%



トンネル掘削現場

部門売上高比率(2022年度)

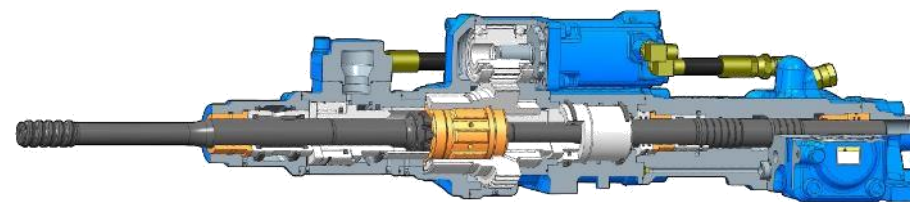


## コアコンピタンス『ドリフタ（さく岩機）』

当社は1914年（大正3年）に実用国産第1号さく岩機「足尾式三番型さく岩機」の開発成功を源流として以降、ドリフタ（さく岩機）技術を進化・応用させて現在の製品群（ブレーカ、圧碎機、クローラドリル、ドリルジャンボ等）に繋げてきました。

つまり、**当社の強みは「ドリフタ（さく岩機）」技術**です。

## ドリフタ（さく岩機）







## 中期経営方針2022振り返り：業績回復への主な施策

### ● 選択と集中：得意なところを最大限に伸ばす（得意な機種を集中生産、得意な地域に集中販売）

中期  
経営計画  
2019  
以前

#### 地域戦略

- ブラストホールドリルの海外最大市場は、北米市場にもかかわらず、全方位的営業を展開
- 欧州の主力製品である油圧ブレーカの営業活動が販売店頼み

#### 製品戦略

- ブラストホールドリルは、欧州を主体とした製品開発  
⇒ 主市場である北米とのミスマッチ
- ブラストホールドリルは各種ニーズに対し、機種を標準化  
⇒ 製品ラインナップの肥大化

#### 事業ポートフォリオ

- 世界的展開を見据えた拠点設定  
⇒ 進出効果の薄い国へも進出

中期  
経営方針  
2022  
施策

#### 北米：大型ブラストホールドリルを集中販売

- 生産も北米向けに集中生産体制

#### 欧州：油圧ブレーカを集中販売

- 主市場であるフランス、イタリア、ドイツの販売を強化

#### 北米市場にマッチしたブラストホールドリルの製品開発

- 脱欧州仕様、USAが販売し易い仕様へ変更
- 爆砕業者向けに輸送姿勢を考慮した基本設計

#### ブラストホールドリルの製品ラインナップ絞込み

- 31機種 ⇒ 14機種 へ絞込み
- 絞込みにより、コストダウン・生産効率向上

#### コストアップの販売価格転嫁を実施

- タイムリーな価格転嫁の実施
- 変動費、販売価格の一元管理化

#### 不採算拠点の清算

- 中南米 販売会社 FRDLAの撤退
- 中国上海 販売会社 FRD上海の撤退
- インド 販売会社 FRD INDIAの縮小



## 中期経営計画2025に向けた取り組み ～海外の主な施策：地域戦略～

- 大型ブラストホールドリル、全方位から北米主体に営業方針を転換
- 北米、欧州に続く、第3の市場創造～東南アジア～

### <集中販売> 北米向け大型ブラストホールドリル

- 景気刺激策やインフラ投資により需要が堅調な北米市場に向けて、油圧クローラドリル、ダウンザホールドリルの大型ブラストホールドリルを集中的に販売



油圧クローラドリル  
HCR L110-E5

- 米国西部地区に拠点を新設し、爆砕業者への販売を強化
- スtockビジネスを強化



米国ネバダ州の新拠点

### <市場創造> 東南アジアの砕石市場／空圧から油圧への誘導

- インフラ向け投資が期待できる東南アジアの砕石市場をターゲットとして、従来の空圧クローラドリルから油圧クローラドリルへ誘導の先陣機となる油圧ショベル搭載型アタッチメントドリル（油圧ドリフタ搭載）を投入
- インドネシアの砕石現場を主として、東南アジア各国へ販売中





中期経営計画2025に向けた取り組み ～国内の主な施策：カスタマーサクセス※実現への取り組み～

## ●危険作業の排除、人手不足、技能・ノウハウ継承、省人化、効率化の課題解決

※「顧客の成功を達成する」ことで「自社の利益を得る」という考え方。普段から顧客に能動的にかかわり、ビジネスがどこへ向かっているのか、その方向やゴールを把握したうえで、提供する製品やサービスで顧客のビジネスを支援すること。

### 油圧クローラドリル／セミオートせん孔機能を追加

- ドリル未習熟者でもせん孔を可能とする製品を提供



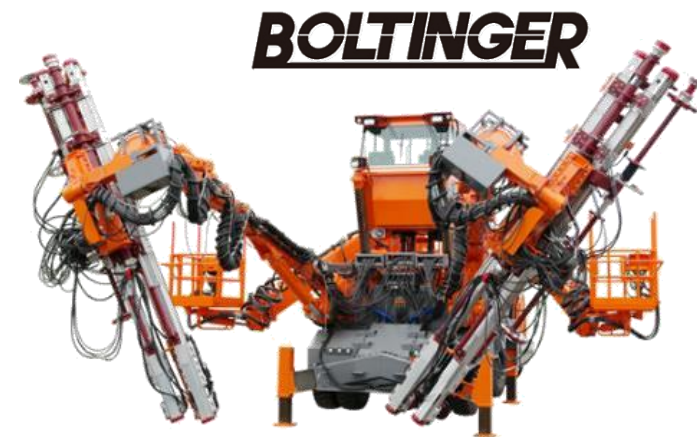
油圧クローラドリル  
HCR1000-DVI ADVANCE

### トンネルドリルジャンボ／全自動ドリルジャンボ、ロックボルト施工機

- 山岳トンネル工事向けに、せん孔の自動化・ロックボルト施工の機械化を実現する製品を提供



全自動ドリルジャンボ「ロボロック」  
J32RX-Hi



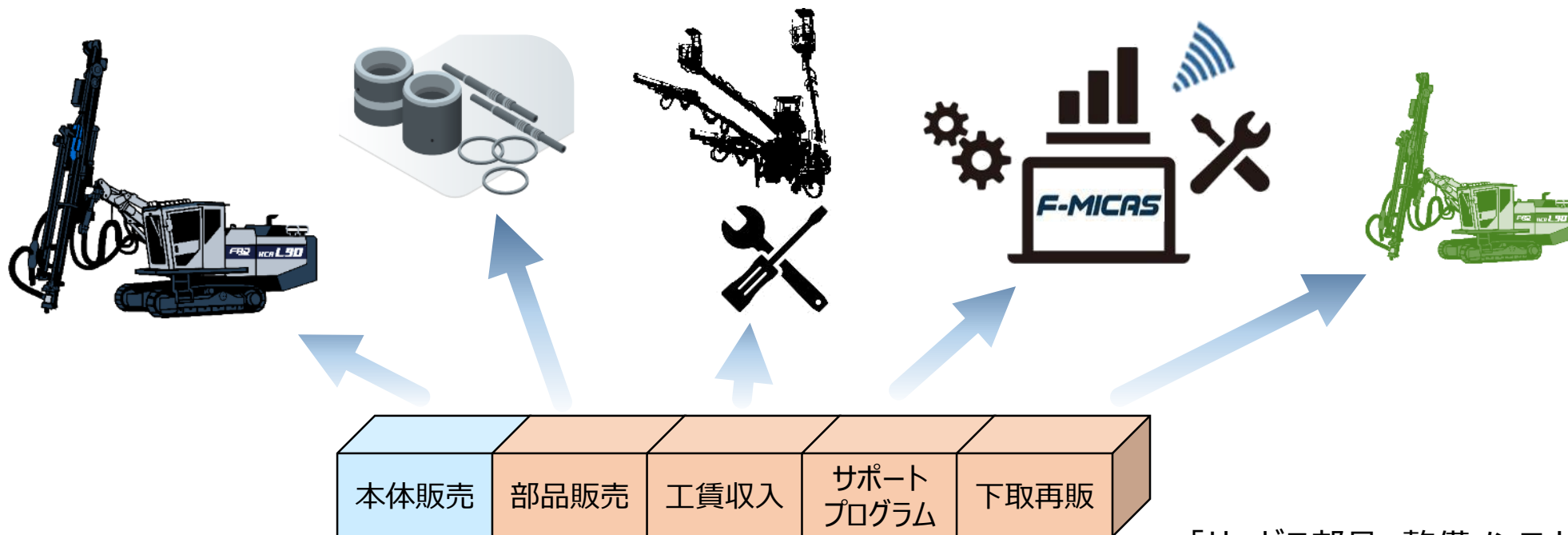
ロックボルト施工機「ボルティンガー」  
B22RL



FRDモデルの構築

FRDモデルとは：「ライフサイクル全域で**カスタマーサクセス**を実現するビジネスモデル」

コンセプト：FRDコアコンピタンスである**油圧ドリフタ**と、FRDが得意とするドリル碎石市場の強みを最大限に活用し、ライフサイクル全域において顧客ビジネスを支援して利益創出を狙うビジネスモデル



FRDモデル

「サービス部品、整備メンテナンス、サービスプログラム、レンタル、下取り等」の有形・無形のストックビジネス中心の展開だけでなく、フローとストックの両輪で展開。



FRDモデル

ブラストホールドリルのサポートプログラム『FD-CARE』

- ブラストホールドリル用稼働サポートシステム／F-MICAS(エフマイキャス)で得られた各種デジタルデータを基に、DXによる顧客（切羽）の生産性向上（**カスタマーサクセス**）をサポートする。

**FD-CARE** Report Delivery

F-MICASで収集したデータを分析・レポート化し、配信するプログラム

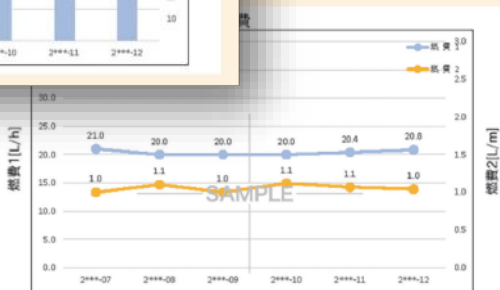


機械稼働情報

3-1. 機械操作の効率を可視化



コストの分析



**FD-CARE** Drill Operation

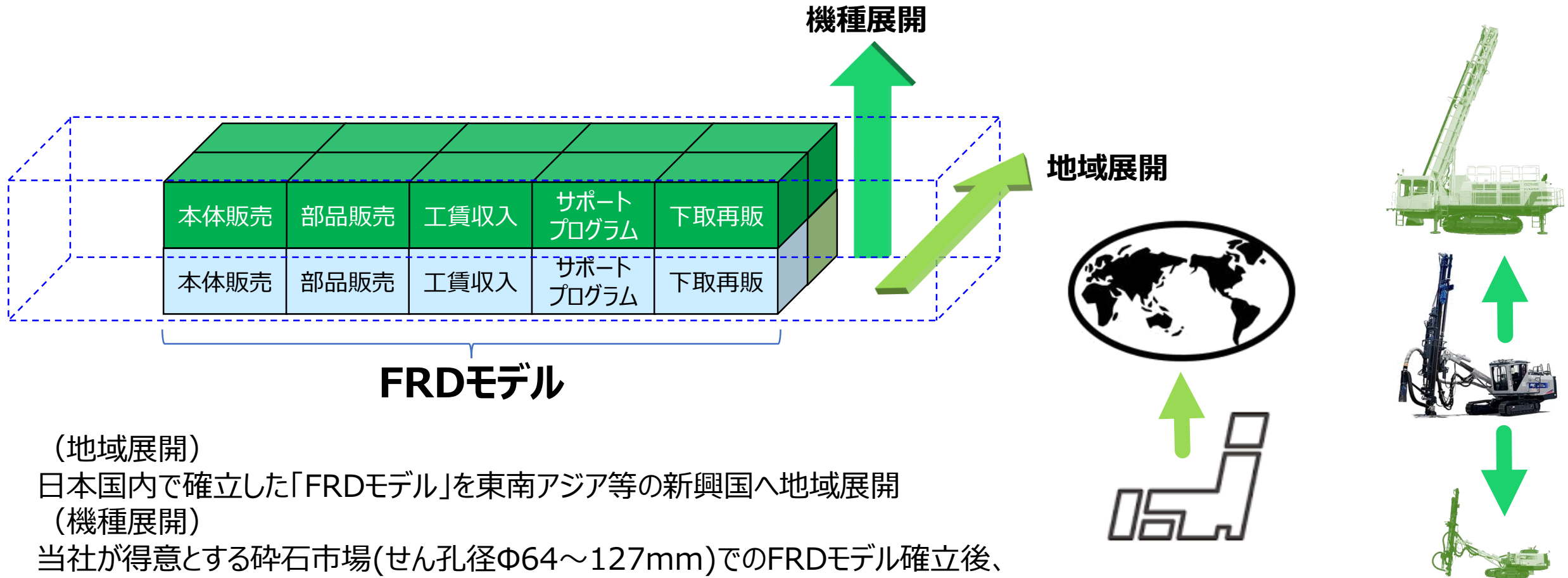
実測データに基づいたコンサルティングと技術サポートで、ドリルオペレーションの課題を発見・解決し、穿孔効率や作業効率の向上を実現。CO<sub>2</sub>排出削減にも貢献





FRDモデルの展開

● 地域展開、機種展開



FRDモデル

(地域展開)

日本国内で確立した「FRDモデル」を東南アジア等の新興国へ地域展開

(機種展開)

当社が得意とする碎石市場(せん孔径Φ64~127mm)でのFRDモデル確立後、FRDモデルのΦ64mm未満又はΦ127mm超の市場展開も検討



FRDモデルの展開

● 上流・下流展開

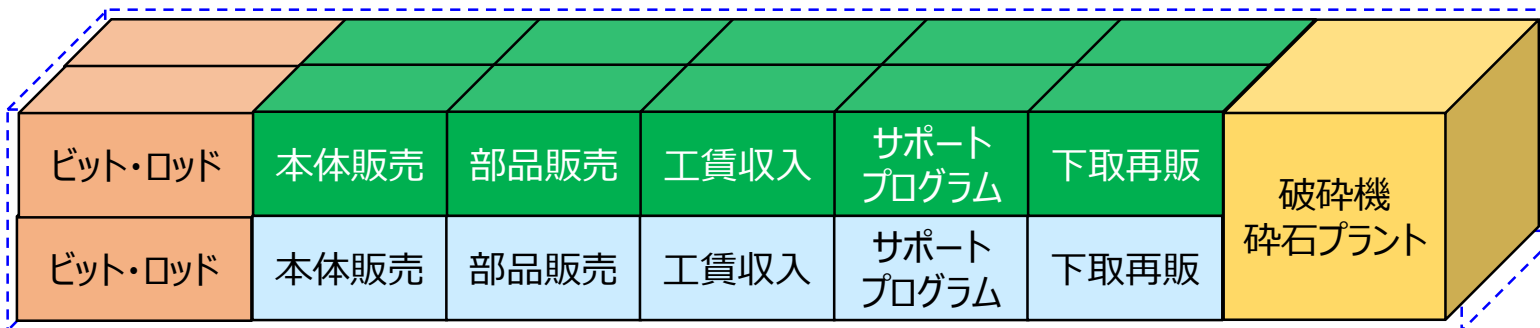


ドリルビット

上流展開



下流展開



産業機械部門 破碎機  
コーンクラッシャ  
GEOPUS C3 GP3-200

FRDモデル

(上流展開)

ドリルアクセサリ（ビット・ロッド）の積極展開。

(下流展開)

ロックドリル部門と産業機械部門を有する古河機械金属グループの強みを活かし、当社の油圧クローラドリルと産業機械部門の破碎機等の下流製品を総合提供することで砕石業の最適運営をサポート。（競合は海外1社のみ）

このモデル展開により、ロックドリル事業を持続的に成長させていく。

砕石現場の流れ



# 将来の見通しに関する記述等についてのご注意

本資料に記載されている、古河機械金属株式会社および古河機械金属グループについての予測、期待、想定、計画、認識、評価等の将来の見通しに関する記述は、当社が公表日現在において入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいております。これらの判断および前提は、その性質上主観的なものであること、また、実際の事業環境・事業活動は、様々な潜在的リスクや不確定要因を含んでおり、それらによる影響を受けることから、本資料の将来の見通しに関する記述内容またはそれによって示唆されている内容は、実際に生じる結果と大きく異なる可能性があります。なお、将来の見通しに影響を与え得る潜在的リスクや不確定要因については、当社の有価証券報告書や当社ウェブサイトの「事業等のリスク」の項目に記載されておりますが、これらの項目に限定されるものではありません。

したがって、本資料は、記載されている経営指標や予測の達成、将来の業績等について、当社として確約または保証するものではありません。また、新たな情報や将来の事象その他にかかわらず、当社は、本資料の日付以降において、本資料に記載された内容を修正して公表する義務を負うものではありません。

本資料は、利用者の責任においてご利用ください。本資料に含まれる情報の信憑性、正確性、完全性、網羅性、適時性等について、当社は一切の保証を行うものではなく、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料は、当社の経営方針・経営情報等をよりよくご理解いただくことを目的として作成したものであり、いかなる有価証券の投資勧誘をも目的としたものではありません。この点を踏まえ、本資料の情報に全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えいただき、投資に関する決定は、投資者の皆様ご自身の責任においてご判断いただきますようお願いいたします。



引き続き当社へのご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



 **古河機械金属株式会社**